

資料1



「市民ワークショップ」 ～みんなで作りあげる津山の未来～ 結果報告書

平成27年5月23日(土)・24日(日)
津山圏域雇用労働センター

市民ワークショップの概要

1 目的

総合計画の策定にあたり、人口等の将来推計、地区別懇談会等の結果をふまえ、市民と課題を共有したうえで、市が重点的・戦略的に取り組むべき施策の方向性(コンセプト)やポイントを見出す。

2 総合計画策定における位置づけ

施策立案に、市民目線の発想や直面している課題を反映根拠をもった施策づくりのための調査の一環

3 テーマ設定と参加者の属性

地区別懇談会等で市民の関心の高かった「子育て」、「雇用」、「住みやすいまちづくり」、「地域づくり」に関することについて、属性(年代、性別)を分けて、テーマを設定した。

「子育てしながら働きやすい津山」(30～40歳代女性)

「仕事づくり・人づくりのできる津山」(30～50歳代男性)

「便利で使いやすい公共交通がある津山」(60歳代男性・女性)

「地域で支えあう津山」(20～60代男性・女性)

4 意見等聴取方法

テーマごとにグループとなり、ファシリテーターの進行に従い、自由に討論した。

5 市民の選定方法

無作為に抽出した20歳以上の市民1,000名に参加を依頼し、合意いただいた方の中から、抽選により選定した。

6 意見聴取等の結果

次ページ以降に掲載

「子育てしながら働きやすい津山」(P2～4)

「仕事づくり・人づくりのできる津山」(P5～7)

「便利で使いやすい公共交通がある津山」(P8～10)

「地域で支えあう津山」(P11～13)

概要

開催日時	平成27年5月23日(土) 13:00～17:30
開催場所	津山圏域雇用労働センター 1階 中会議室
参加人数	4名(うち1名:市職員)
属性など	20代～40代女性(子ども有り)
ファシリテーター	1名(一般社団法人つながる地域づくり研究所)
プログラム	・開会 ・あいさつ(市総合企画部政策調整室 明楽参事) ・自己紹介(参加者全員) ・テーマに関する課題抽出や意見交換など ・まとめ

主な提案内容

もっと子どもを預けやすい「保育園」にする。

自宅から近い保育園に必ず入れるように。
預けられる時間帯を、7時～19時に。

安全に子どもが遊べる場所を増やす。

身近なところに公園を増やす。

「子どものための複合施設」を整備する。

イメージ: 保育園、幼稚園、学童保育、図書館、子どもの習い事(音楽、体操、英語など)、学習塾、親の趣味や教養スペース(お稽古、カルチャースクール)、就業・内職の場所、食事、喫茶、買い物、食育のための料理教室など、1カ所で全て賄える場。

子育てに関する「職場の理解」を促進する。

事業主への普及啓発。
(従業員が育休などを取得しやすいよう。)

市役所の窓口(申請・届出など)の順番を、小さい子ども連れや、ベビーカーなどの人を「優先」とする。

特に、混雑時などに、配慮をお願いしたい。(市が率先する。)
民間事業者にも働きかけてもらいたい。

その他の意見やアイデアなど

【保育園などについて】

保育園は、自宅や職場から近いことが重要。

理想の保育園までの距離は、車で10分以内。

保育園や幼稚園の預かり時間を、あと1時間でいいので(最大希望は21時頃まで)延長してほしい。

さらに、朝7時くらいから預かってほしい。

きれいな保育園が人気が高い。

保育士さんの役割も重要。

学童保育や、放課後児童クラブの時間の延長や、預けられる子どもの年齢の上限を、上げてほしい。

双子や年子など、子育て負担が大きい世帯を優先的にサポートするしくみがあってもいいのでは。

病児・病後児保育を、充実(箇所数の増)してほしい。

【子どもの遊び場について】

公園など、子どもを近くで遊ばせる場所がもっとあればいい。

そんなに立派でなくても、遊具が多くなってもいい。数が足りない。

今ある公園も、管理が不十分。

雨が降った時に、行く場所がない。

安全と思える場所でないとだめ。

児童館も古い。

【子どもの移動や通学などについて】

通学路の安全確保(防犯カメラ、防犯灯の整備など)が重要。

歩道の整備をしてほしい。

ベビーカーが通りやすい道にしてほしい。(段差、歩道の凸凹など)。

まちなかの色々な場所に、ベビーカーを設置してほしい。

【子育てしやすい環境などについて】

職場(事業主)の考えや体質が古い。

育休など、休暇が取りにくい雰囲気がある。

地域ぐるみで子育てするような雰囲気づくり。

家族の理解や協力、支え合いも重要。

その他の意見やアイデアなど

【子どもの教育や将来について】

学校が好きな子どもになってほしい。
何か1つだけでも、得意なものができるといい。
SNSとの関わり方に気をつけたい。(夜のスマホの利用なども)。
将来は、自分で生活できる(生きていける)ようになることを望む。
自分でお金を稼げる大人に育てたい。
将来的な、子どもを育てるためにかかるお金(大学までの教育費など)の負担について、非常に不安を感じる。

【自分のことなど】

資格を取って、少しでも条件の良い仕事に就きたい。
自分で新しい仕事を起こしたいという、夢を持っている。

ワークショップの様子



概要

開催日時	平成27年5月23日(土) 13:00～17:30
開催場所	津山圏域雇用労働センター 1階 中会議室
参加人数	7名(うち1名:市職員)
属性など	30代～50代男性
ファシリテーター	1名(一般社団法人つながる地域づくり研究所)
プログラム	・開会 ・あいさつ(市総合企画部政策調整室 明楽参事) ・自己紹介(参加者全員) ・テーマに関する課題抽出や意見交換など ・まとめ

主な提案内容

高齢者が安心して楽しんで暮らせる「シルバーリゾートタウン」を実現し、全国から訪れ、住んでもらう。

医療・福祉の資源を活用し、若い世代の雇用につなげる。
「津山ライフ」の魅力を発信し、観光サービス業を活性化。
中長期的には医療ツーリズムなどへの転換を視野に。

産学連携で「津山ならではの技術」の核を打ち立てる。

学んだことを生かせる場があれば、人材の定着につながる。
津山の「すごい企業」をアピールする。
専門的な技術・知識を生かした独立・起業を支援・推進する。
伝統技術や職人技との連携でイノベーションを起こす。

津山でしかできない「農林産物の生産・加工・販売」戦略。

民間のプロによる戦略と、行政・地域での実行の役割分担。
輸出もにらんだ最先端の一次産業(六次化)を実現。
自然相手なので、規模や働き方もナチュラルに。

津山にある歴史資源の「順次復元・改修」によるファンづくり。

新たに作るのではなく、元々あるものを活用する。
段階的に行うことで、期待を高め、リピーターを増やす。
実現困難なものは、ARや3Dなどデジタル技術も活用。

その他の意見やアイデアなど

【仕事面で魅力ある都市像について】

世界に誇れる企業や仕事があるまちであってほしい。
多様な仕事があり、選択できることは、若い世代にとって魅力になる。
学校卒業後に、学んだことを生かせる企業や仕事が必要。
この地で働ける喜びや誇りを感じられる津山になってほしい。
優れた企業があることを知らないなので、PRすべき。
高校、高専や大学でせっかく入ってきた人材を流出させないように。
よそにはなく、津山に合った技術や製品でなければだめ。
津山でなければならぬ理由がないと、企業には選ばれない。
津山のセールスポイントが何なのか分からないのが問題。
若い人が能力を生かせない現状のままでは発展しない。

【働き方について】

田舎ならではの楽しみや豊かさが享受できる働き方がある。
ワークライフバランスを大事にしたい。
若い世代は価値観が変わってきているので、新たな働き方を提示すべきではないか。
70歳まで働けるまちになってほしい。
働きやすいまちであることは、売りになる。
新卒だけでなく、中途採用にも門戸を開いてほしい。
企業の成長のために働くのではなく、人間の暮らしのための経済でないと、心や体が壊れてしまう。

【企業間の横の連携について】

津山市の生き残りのために、自社利益を超えたマインドを。
情報収集や視野の拡大が、各企業にもっと必要。
経営者が長期的なビジョンを持つために、交流は有効。
津山市全体のことを考え、企業をつなげ、調整するリーダーがいらないのではないか。
ルールや基準の国際化への対応が求められており、1社では難しいことには、連携して取り組んでは。
地場の中小企業が生き残っていくためには、交流による新たな発想や、産学連携による技術力向上が必須。
異業種や伝統産業との出会いが革新を生む可能性がある。

その他の意見やアイデアなど

【人材育成について】

働きながら成長できることが大事。
人材育成まで考えていない(もしくは余裕がない)経営者が多いのではないかと感じる。
高校、高専や大学の学科やコースを、津山の特色を生かした、独自性のあるものにしては。

【その他について】

津山は仕事が少なく、就職に苦労した(している)。
市も含め、危機感が足りない。
こういったアイデアを実際に進める際には、成功は容易なことではないので、プロの力も借りて、戦略的に行うべきだ。

ワークショップの様子



概要

開催日時	平成27年5月24日(日) 13:00～17:30
開催場所	津山圏域雇用労働センター 1階 中会議室
参加人数	7名(うち1名:市職員)
属性など	60代以上男女(男女3名ずつ)
ファシリテーター	1名(一般社団法人つながる地域づくり研究所)
プログラム	・開会 ・あいさつ(市常藤特別理事) ・自己紹介(参加者全員) ・テーマに関する課題抽出や意見交換など ・まとめ

主な提案内容

隣町と連携したバス路線の整備や、バスの共同運行を行う。

お互いの住民が利用しやすい路線や、時刻の設定。
経費(行政負担)の縮減を図る。

デマンドバス(タクシー)の運行。

小さな車両(ワゴン車など)で、きめ細やかで丁寧な運行を行う。
例えば、一定の地域内における公共交通の確保(運行)を、地域住民らが考え、責任を持って担える、しくみや制度をつくる。

「ごんごバス」を、観光客など市外の人が利用しやすいものにするために、工夫を凝らした取組みを行う。

例えば、観光客専用駐車場から、城東地区などの観光地区や、観光施設へのルートを充実・新設する。(市民も利用可とする。)
観光客向けの、バス利用券(割引券)などの発行。

高齢者などが、交通手段を使わずに、歩いて日常生活ができるような、まち(地域)をつくる。

病院、銀行、郵便局、商店(食料品・日用品)、美容院などを、身の回りの地域に集める。
もしくは、集まっている地域へ、頻繁にバスなどを運行する。

その他の意見やアイデアなど

【公共交通全般について】

公共交通機関を利用せざるを得ない市民、例えば、高齢者(免許返納者などを含む)や子ども(学生を含む)のための、公共交通機関のあり方(路線、料金、行政負担の程度など)を議論すべき。

本来は、民間に任せるべき分野。民間が、運営(運行)できない部分について、行政がどこまで支援するか(手を出すか)を、考える必要がある。

福祉の視点(要介護者や障害者など)は、別に考えないといけない。最寄りの交通機関のバス停や、駅までの距離で、自分が利用しようと思う(歩ける)のは、500mくらいまで。

【バス(主に「ごんごバス」)について】

昼間の本数が少ないので、利用しづらい。

概ね、時刻どおりに運行しているが、たまに遅れることがある。

夜の運行が、早い時刻で終了してしまうので、市内で夜飲食などがある際に、帰りの足として使えない。(夜の公共交通機関がないので、市の中心部などで、飲酒を伴う機会が持てない。)

バス同士の乗り換えや、JR線との連絡(主に津山駅)の時間設定が悪く、非常に不便に感じる。

路線(行き先や、通過・経由場所など)がわかりにくい。

昼間、誰も乗っていないバスをよく見かける。経費のムダでは。

朝の通勤・通学の時間には、たくさんの人が乗っている路線もある。

平均的な乗車人数と、バスの大きさ(定員)が合っていない。

中央病院行きのバスは、いつも多い。

多くのバス利用者が、行き先(乗車目的)とする施設(病院や商業施設等)には、応分の負担を求めるべきでは。

料金(現行200円)が、高いとは思わない。むしろ、理由や根拠があれば、利用者負担を上げてもいいのでは。

スクールバスをもっと増やし、それに、みんなが乗れるようにしては。

【JRについて】

津山線を利用するのは、たまに岡山に行く時だけ。

津山線は、普段利用しているのは学生だけでは。

因美線は、駅が近くにあるが、ほとんど利用しない。

その他の意見やアイデアなど

【地域と公共交通について】

地域の住民が、主体的に公共交通の運行に関われるような、しくみがあったり、自治会が出てくれば、ある程度任せてもいいのでは。もっと小回りの利く、小さなバスがあってもいい。タクシーを、もっと使いやすく(料金を下げるなど)してもらいたい。地域の中で、もっとタクシーを利用(活用)したい。

【その他について】

道路の駐車禁止の区域や場所を、もっと大幅に減らしてはどうか。路上駐車ができる場所を増やせばよい。交通安全のために、高齢者の運転免許返納をもっと促すべきでは。岡山市のように、誰でも使いやすい、レンタサイクルを充実させては。

ワークショップの様子



概要

開催日時	平成27年5月24日(日) 13:00~17:30
開催場所	津山圏域雇用労働センター 1階 中会議室
参加人数	7名(うち1名:市職員)
属性など	20代~60代男女
ファシリテーター	1名(一般社団法人つながる地域づくり研究所)
プログラム	・開会 ・あいさつ(市常藤特別理事) ・自己紹介(参加者全員) ・テーマに関する課題抽出や意見交換など ・まとめ

主な提案内容

自然に交流が生まれるような場所を、身近な距離に、各地域に設置する(公民館や集会所、公園などを活用)。

遊べる、休める、気軽に立ち寄れる、サロンのような場所。
様々な地域活動の拠点にもなる。
やりたいことや不満の仲介や解消のためにも機能。

地域の実状を皆で把握し、独自の支え合いをつくるしくみ。

美作大学の3けん活動(たんけん・はっけん・ほっとけん)のようなマップづくりなどを参考にする。
地域のそれぞれの事情に合わせた、異なるしくみでいい。

不動産屋さん、各地域から、地域の特徴や情報を提供し、転入者や引っ越しを考えている人に伝えてもらう。

転入者はもちろん、市内でも他地域の詳しい情報は分からないので、自分たちの地域をアピールする。」

様々な世代が暮らし、保育園と高齢者向けの複合施設を、内部に併設した集合住宅をつくる。

その地域の人たちが自ら望んでいることが設置の大前提。
職員やスタッフも同じ住宅に住み、働いてもいい。

その他の意見やアイデアなど

【近所付き合いについて】

現代は自由や便利になったが、バラバラの個人主義で、リスクや責任が過剰になり過ぎている。
昔の何でも筒抜けも困るが、今は、お互いの情報が分からなくなってしまった。
調味料の貸し借りや、鍵をかけない習慣、おすそ分けなどは、知らない人が増えるとできないこと。
災害が少ないのは津山のよいところだが、裏を返せば、自分が良ければいいとか、行政頼み、排他性を生み出している。
挨拶をする、お年寄りが元気、というのは地域のよいところ。
引っ越してきた人には、早い段階で町内会に入ってもらおうようにしている。若い人なら消防団に入ってもらって仲良くなる。
外から来た人はずっと外の人そのまま、受け入れてもらえない。

【地域活動について】

少子高齢化が進み、子育て世代や子どもの負担が大きくなっている。
行事に出るメンバーがいつも同じ。
役や責任、会合の多さ、夜間の外出などを負担に感じて、嫌がる人が増えている。
老人会が世代間交流に取り組んでいるが、子育て世代のニーズと合っていないところもある。
黙っていると伝わらないので、今年度は、遠慮なく言い合うための場を設けることにした。

【地域活動などへの参加について】

世代間の意識のギャップがある。
前からのメンバーとの繋ぎ役になってくれる人がいると入りやすい。
教えてもらう姿勢で入るといい。
趣味の会などで人間関係を作っておくとスムーズ。
若い世代はSNSなども活用するといいいのではないか。
参加してほしい層が参加できる時間帯や内容にすることも必要。
自分はPTAなども楽しんでいるが、それを出すと「イタイ」「熱いね」と言われるので、隠さないといけないのが残念。
誰のためにしているのか、を考えれば、負担も感じない。

その他の意見やアイデアなど

【地域づくりについて】

最初は熱意のある人が数人いれば始められる。
町内会長さんなどに理解者がいると物事が進みやすい。
市の職員の能力を活用し、コーディネーターとして働いてもらうことも大事。第三者という意味もある。
不満や要望も、やってみたいことも、持って行き場がないので、その仲介や持ち寄りなどができる場を作りたい。
顔が見える関係の、小さな地域を単位とした方がいい。
地域の中でも温度差があるので、まずは現状や課題を共有するところから始める必要がある。
「ヨソモノ」「ワカモノ」「バカモノ」というのは本当に大事だと思う。
市の子育て施策には足りないと感じるところが色々あるが、地域で解決できることがあったらいい。

ワークショップの様子



おわりに

岡山県北の中山間地域に位置する津山市が、抱える少子高齢化や人口減少などの社会問題、また、歴史・文化、産業などの実情をふまえ、取り組むべき課題や活かすべき特徴などについて、様々な意見、提言が出されました。

テーマを掲げ、属性を分けて実施したことで、価値観を共有でき、どのグループも、活発な議論を行うことができました。

出された意見、提言については、P2からの記述のとおりであり、テーマに沿った内容となっていますが、どのグループにおいても、共通するキーワードは、「助け合い」、「支えあい」、「連携・協力」、そして、「次の世代のため」というものでした。

ワークショップで出された市民の皆様からの率直、かつ、切実な意見、提言は、第5次総合計画に反映させ、具体的な施策展開に活かしていくものです。

ご多忙の中、ご参加いただき、活発にご議論いただいたことに感謝申し上げますとともに、今後とも市政運営にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。